

漁況予報 い わ し

第178号

【2013年7～8月漁期】

※1 平年：過去5年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

= 概況 =

【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は5月が22トンで、前年(16トン)並みでしたが平年^{※1}(111トン)を大きく下回り、6月は54トン(速報値)で、前年(0.8トン)を大きく上回り平年^{※1}(57トン)並みでした。

魚体は、6月には被鱗体長^{※2}(以下同)15～17cmの中羽イワシが主体でした。これは2012年生まれの1歳魚と推定されます。

佐島地区のまき網は、5～6月を通じてカタクチイワシに混じる程度でした。

6月までの春シラス漁におけるマシラス漁獲量は、標本船3ヶ統データから判断するに昨年以上に少ない模様です。

今後は少ないながら0歳魚(ヒラゴ～小羽サイズ)が漁獲主体となると考えられます。

【カタクチイワシ】

主要定置網における5月のカタクチイワシ総漁獲量は571トンで、前年(650トン)および平年(655トン)を若干下回りました。つづく6月の漁獲量(速報値)は330トンと、前年(442トン)および平年(564トン)を下回りました。

魚体は、5月は12cm以上の大型成魚が主体で、2011年生まれの2歳魚と推定されます。6月に入り10～11cmの小型成魚が主体となりました。

佐島及び鴨居地区のまき網は、餌イワシとしての漁獲が継続しました。

今後はひきつづき小型成魚が漁獲主体になり、8月頃からは9cm未満の未成魚も少ないながら漁獲されると考えられます。

【シラス】

3、4月と不漁だった昨年同期を上回るも平年を下回る漁獲量で推移した相模湾のシラス漁ですが、5月に入り中旬までは100kg/日以上の日が続きましたが、下旬から徐々に漁獲水準が落ちていきました。5月のシラス漁獲量(標本船データより推定)は不漁だった前年を上回ったものの平年を若干下回りました(前年比2.2倍、平年比0.8倍)。

つづく6月は黒潮がC型基調になり、更にシラスが来遊しにくい状況になったこともあり、沖曳き操業を行う地区もありました(前年比0.3倍、平年比0.4倍)。

今後は、相模湾周辺での産卵量に因るところが大きいため、その採集量を注視していく必要があります。

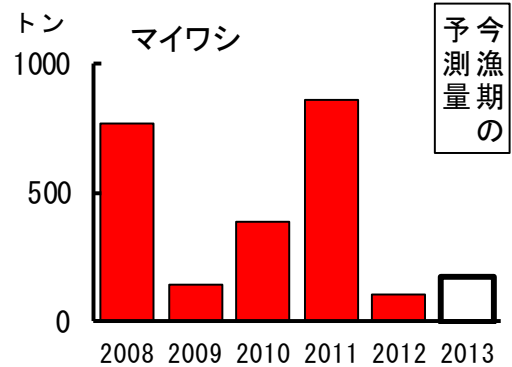
= 予 報 =

過去5年の7・8月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

【マイワシ】

今漁期は、2013年生まれのヒラゴ～小羽マイワシ（10～14cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、春季のマシラスの漁獲状況から、前年を上回る約150トンと予測されます。

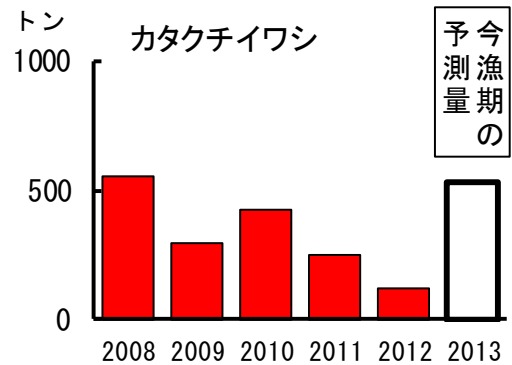


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【カタクチイワシ】

今漁期は、2012年生まれの小型成魚（9～12cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、昨年同期の隣県カタクチシラス漁獲量から、前年を大きく上回る530トンと予測されます。

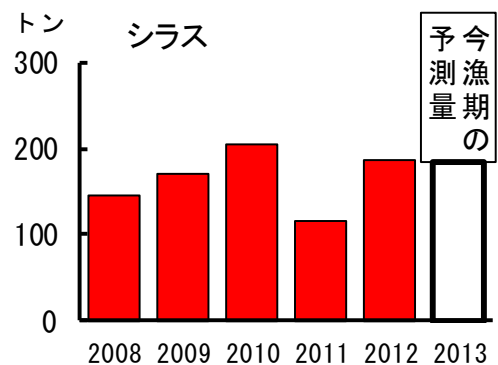


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【シラス】

今漁期は、6月以降に発生したカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、5～6月の相模湾周辺のカタクチイワシ卵分布状況から、前年並みの185トンと予測されます。



神奈川県水産技術センター企画資源部
三浦市三崎町城ヶ島 (046) 882-2312